

興」に近代生活の發端を指示し以下第二十五講「世界戰役 世界改造」の現時に至る近世文化の複雑多様な形相を文化的史潮の交流下に分析し統合して其大局を把握解明し居れり概して古代及び中世の部分が大きいに簡約され居るは聊か惜しき心地すれども近世殊に現代期の文化生活に就いては最も精到なる史的省察を試み讀者に切實なる感銘を與へしむるものあり本書は著者の自序にある如く現下の世界改造期に當りわが讀書界に必要缺くべからざる世界史の敷養を與へん爲に公表されしものなるが故に専ら叙述の平明を旨とせられしと雖も博士の學殖と識見とは含蓄に富みし辭句要約洗練を経たる行文の間に充溢するを覺ゆるなり。(岩波書店發行、價五・五〇)〔植村〕

●印度の佛教美術

松本文三郎著

本書は大正七年八月京都大學の夏期講演會に於いて「古代印度の佛教美術と東洋に於ける其の影響」と題して著者の試みられたる講演の骨子に修正増補を加へて印行せしものなり本文第四章より成り第一章叙述に於いて初に叙述の範圍の西紀前三世紀の中葉より後七世紀に亙る間の印度佛教美術及び其の東亞に及ぼせる感化を説くにあるを云ひ其の研究の由來より印度史の概観と其の美術の唯心的超越的象徴的神秘的及び利他的なる五特質に關する透徹せる觀察を試み以下本論を建築彫刻繪畫の三章に分ちて詳論せり建刻の章にては其の由來より印度佛教建築の主要部を形成する塔及びその附屬の周垣、門の様式變遷を述べ支那の雁塔や日本の塔に及びまた石窟にて其の制を見る洞多堂、毘阿羅を説き柱と幢に

關して附記する處あり彫刻の章は先づ現存最古の阿育王時代の遺物を舉げて當時佛像の存せざりし理由に就いて觀察し次に印度に於ける彫像の二大流派をなす犍陀羅式と毘多式との二者の特徵源流變遷相互の關係價值等に互りて詳細なる研究を試み毘多式の彫刻を以て佛教美術の粹なりと云ひ支那の造像に及ぼせる影響の主として此の系統に屬すべきを遺物上より立論せる處所最も觀る可し繪畫の章は文獻上より其の畫題と性質とに就いて考察し主としてアザヤンター石窟寺の壁畫を論じて我が國法隆寺の壁畫に及びりなほ附録にアザヤンターと西域記阿折羅伽藍なる一文あり印度の美術に就ては四人の研究あり其の東亞に及ぼせる影響如何は研究上興味ある題目として從來我が學者のこれを論ぜしもの少なからざるが本書は博士の深き印度學の知識に基きこれを貨物に徵して立論せられたるものなれば關野工學博士の近く建築雜誌四〇〇號に發表せられし「印度の佛教美術に就て」と共に此の方面の最も權威ある研究と云ふべく學界を益する大ならむ本書菊版約四百頁玻璃版十數枚に代表的遺品を載せて對照に便にせりたゞ其の圖小に失して稍鮮明を缺くを憾みとす。(兩午出版社、定價四・〇〇)

●法隆寺壁畫保存方法調査報告

大正五年以來文部省内に保存調査委員會を設けて専門家に屬し各方面より調査をなしつゝありし大和法隆寺壁畫に就いて本年三月第一期の調査の終了せるを機とし其の間に得たる結果を録せるものは是れなり四六倍判本本文百二十八頁和紙刷大小圖版五十二葉の大冊にして外に附録十八頁圖版四葉を添ふ利に委員會の設置に

其の經過を記し保存の方針に就いて考究せる所を擧げ壁體及畫面の調査應急的保存上の設備より根本的保存法として壁面の硬化と絶裂部の補填及び其の實驗の結果等各項に亙り委員の調査の結果を詳述して近重博士の硬化法の有効なるを認め其實施す可きのなるを斷ぜり文中壁體の性質に關する基本上の調査を載せ(三五四四三頁)顏料の性質に關する化學的研究の結果を擧げしが如き(四九一五二頁)重要な記事を含み加ふるに圖版五十二葉は何れも壁畫の實際を示せるものなるを以て此の種遺物の保存に關する好參考たると共にまた此の壁畫に關する最も權威ある報告として永く後の研究者の依據す可きものたるに附録は委員大森理學博士の「法隆寺金堂壁の震害に就きて」同濱川文學博士の「北宋墓甄壁畫硬化成績報告」同「漢代彩甗硬化成績報告」の三編を收む本文と併せて參考たる可し。(内務省宗敎局印行、非賣品)

●京都府史蹟勝地調査會報告 第二冊

四六倍版本文百八十頁附圖三枚圖版五十八葉より成る體裁すべて第一冊に同じ大正八年度に於ける委員西田直二郎梅原末治兩氏の調査報告を主とし加ふるに前年度の調査にて第一冊に漏れたる遺蹟を以てせり收むるところの主要なるものを擧げんに先づ京都市に於いては豐太閤所築の御土居に關する西田委員の報告は前後四十頁に亙りその由來工程を説き京都大學所藏の御土居繪圖を以て一々實地に對照しその現狀を記錄せるものなり葛野郡にては松尾村及び川岡村大字岡にある主なる古墳に關する調査注意す可く乙訓郡の河陽宮址の考證は西田委員の手に成り其の由來より相懸

寺址と關聯して遺址を推定せるもの宇治郡にありては山科村發見の窯址を録すると共に第一冊に報告せる大宅寺址に就いて更に新發見の古瓦より推して鎌足の山階寺の址に當つべきにあらざるかを疑ひ山科村西野山の墳墓と其の發見の遺物は昨年三月の發見に係る此の特殊の墳墓に就いて記し發見品の正倉院御物との類似を擧げて奈良朝の營造なるを設けるものなり綴喜郡の美濃山飯ノ岡兩地の古墳は南桑田郡篠村の古墳と共に梅原委員の實地調査の結果を詳細に記述せるものとして本邦古墳墓制の研究に資す可し加佐郡の四隆寺の條には特にその佛像の優秀なるを云ひ金剛院にては所藏文書を解脫せり熊野郡の條には石器時代遺跡古墳經塚等に亙り多くの報告あるもの就中湊村函石遺石器時代の遺跡は有名な此の遺跡に就いて先づ其の現狀と委員調査の結果を詳述したる後從來發見の遺物を擧げ其の性質の我が上代文化發達の考察に資すべきもの多きを説ける二十頁に亙る長文なり是等の遺跡は何れも單に一地方の史蹟たるに過ぎまらず關係するところ大なるものあり従つて實地調査の結果を記述せる本報告は豊富な圖版と相待つて廣く研究者の好資料たるむたゞ本冊收むる圖版中には不鮮明なるもの少なからざるは遺憾なり。(京都府發行、京都市寺町吏川桑名文星堂實費頒布)

●若狹及び越前に於ける古代遺跡

(福井縣史蹟勝地調査報告、第一冊)

大正六年度より縣下の史蹟調査を實施しつゝありし福井縣に於て其の報告書の第一冊として公刊せるもの本書なり全編常置委員

上田三平氏の調査の結果に成り卷頭の知事及び顧問濱田博士の序文に調査の由來と性質を示せり四六倍版本文百二十頁圖版・地圖・實測圖類七十三葉より成る大冊にしてすべて京都帝國大學考古學研究報告の體裁を襲へるが如し内容を見るに先づ石器發見の遺跡の條下に於いて主として繩紋土器を伴ふ遺跡を録し次に彌生式土器及び石器發見の遺跡としては有名な河和川の遺跡を初め越前中部の諸遺物を記述せり第三章の銅鐸發見の遺跡の條にては井ノ向、新、向山の三ヶ所に就いて其の個々の形狀と其の出土の狀態を録す第四は本編の主要部をなす埴形古墳及び横穴の記述にして其の範圍全縣下に互り頗る詳密を極め末尾に附するに古代窯址の報告を以てせり全編首尾一貫して何れも事實の記載に重きを置き豊富なる圖版と對比するに於いて同地の上代遺跡を知るに關くる所なきに庶幾く盡し近出の此の種の報告書中の傑出せるもの、一なりたる玉疵とも云ふべきは圖版と本文との對照充分ならず又た圖版の遺物は何れも比例尺を缺き爲に本文中にある詳細なる寸尺の記述も單に煩雜を加ふるのみにして一見正確なる大さを認め難き點等なりとす。(福井縣廳實費頒布)

●考 古 圖 集

本年二月より考古學會の新たに出せる月刊圖集なり每集菊版コロタイプ十枚に説明を添へたるものにて同會の高橋健自氏主裁の下に後藤守一氏の編纂に當れるものなりと云ふ既刊の六集に就いて見るに收むる所單に上代の遺蹟遺物に限らず例へば第二集に醍醐三寶院所藏の鏡第三集に伊勢龜ノ森神社所藏の兎肥後球磨郡元

城泉寺九重層塔第五集の大和國吉野郡蟬蛸神社女神像等 各代の遺蹟遺物を收めまた興味ある遺蹟遺物に就いては單に其の珍品を採るの風を排して順次其のすべてを收め圖を主とせる報告とせむとする方針なるは喜ぶ可く彼の越中大境の石器時代洞窟の一類の如きまた紀伊那智發見の佛像類の如きこの例なり第三集より掲載しはじめし朝鮮金羅南道漆東面の喪棺ある古墳の如きも興味ある資料なり各國の解説また第一集は單に寸尺の記入に過ぎざりしも漸次其の特徴を摘記する事とされるが如きを以てこれが永續するに於いては研究上の好資料たるべし圖集の印刷蓋して鮮明紙質また良し。(二集—六集各五拾錢、七集以下七拾錢(郵税六錢) 考古學會發賣)

●東京帝室博物館列品埴輪圖集

本邦にありて上代遺物の蒐集に特殊の位置を占むる東京帝室博物館が二十餘年來蒐集せる埴輪類に加ふるに、各地より出陳せる遺品を併せ圖録せるもの本書なり。大々四六倍判、圖版百七十六、和裝上下二卷より成り、收むるところ二百十二圖あり。男女各種の土偶より家畜、鳥、家屋、武器、圓筒等網羅し、一々其の細部を示すに注意して彩色あるものは着色版を用ひ、これに名稱、發見地、寸法等を記入して觀者の理解に便にせり。遺品の分類を初め編纂は同館上古部の主任高橋健自氏主としてこれに當り、別に近く氏の筆に成る其の詳細なる解説を刊行す可しと云ふ。此の書完成の上は本圖集の價值は一層重きを加ふべく、永く埴輪類研究上の好資料たむ。

此の圖集早く博物館より刊行の豫定なりしが、經費其他の都合にて果さざりしものを今次歴史參考刊行會をして發行せしめしものに係る。たゞ其の印刷に和紙を用ひ、裝幀に意を用ひたるは觀賞用として喜ぶべきことならむも、爲に値高きに失して一般の研究者に廣く頒布せらるゝに至らざるの憾あるは本圖集の如き純學術上の書に於いて吾人の探らざることを、用紙また此の點に於いて洋紙の方一層適當なりしを感ずるものなり（歴史參考刊行會、六〇・〇〇）

● 爐邊叢書

柳田國男氏編著

本邦に於ける民俗研究家の第一人者として知らるゝ柳田國男氏の編纂に係る第一集は赤子塚の話、おさら狐の話、奥州のザシキワラシの話、神を助けた話の四冊より成る。何れもボケット型百頁内外の小冊子なり。就中奥州のザシキワラシの話は佐々木喜善氏の著にして關係の舊話を博く採録せるものとて尊重す可く、おさら狐の話は早川孝太郎氏が三河國長篠村に存する同名の狐に關する材料を供給せるに因み柳田氏の狐患及び化かし狐の研究を收めしものにして、氏の筆に成る他の二編即ち、境の神を祀る風習と塚や子安神の關係を考察せる「赤子塚の話」、日光二荒山に存する古傳を中心として研究せる「神を助けた話」と共に幾多の資料を巧みに排列して明快なる解釋を下せるもの、一讀興味の津々たるを覺ゆ。而して卷末に附する詳細なる引用書目は永く後の研究者を裨益すべきものなり（玄文社發行、每冊各〇・四〇）（以上梅原）

● 朝鮮の謎

朝鮮總督府學務局編

本書は朝鮮に行はるゝ謎を各道の採集報告に基きて編纂し朝鮮民族資料の第一編として發行せられしものにして別に附録として朝鮮總督府囑託文學士田中梅吉氏の手に成れる「謎の研究」一冊を添へたり。全體を様式に従つてス、コツキ（普通謎）と破字（字謎）との二に分ちス、コツキは更に答の意義に依て分類せり載するところ凡九百項、諺文の傍に譯文を附し且つ難解のものには註解を加へ、鮮語及び鮮地の風俗に通ぜざるものにも容易に其の意を得しむる事に意を用ゐたり從來朝鮮の謎に就いて研究又は紹介を爲せしもの全く無きにあらすといへども斯くの如く多数に蒐集せしものなく内地の謎に就いても亦絶無の事に属し實に謎其のものゝ研究上好資料たるのみならず朝鮮の土俗の調査にも絶好の參考材料たるべし附録「謎の研究」は歐洲、支那、日本、朝鮮の謎の歴史と様式とに就きて研究したるものにして、此種研究の自眉とすべきも謎の研究としては此の外なほ殘されたる幾多の事項あるべきは言を俟たず。（朝鮮總督府發行、非賣品）（岩橋）

● 同盟及聯合國と獨逸との平和條約並 議定書、附波蘭國に關する條約

一九一九年六月二十八日、ヴェルサイユに於て調印を了し、本年一月十日批准交換を了せる聯合國と獨逸との講和條約に就ては、已に昨年末、印刷局内の朝陽會にて出版發賣せるものあるが、本年に入りて、外務省より講和條約の正文及波蘭と主たる同盟及聯